

自 己 評 価 表

愛媛県立三崎高等学校
学校番号 (37)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
1 知識・技能 「学習能力」：幅広い知識と技能を学び続ける力 「言葉にする力」：自分のことばを紡ぎ、他者に伝える力 「自己変革力」：自身と周囲を変革する意欲 2 思考・判断・表現 「問題発見・解決能力」：自身と周囲・地域の問題を発見し、解決する力 「創造力」：新たなモノやコトを創造する力 「コミュニケーション力」：自身の考えを論理的・共感的に伝える力 3 主体的に学習に取り組む態度 「越境性」：自分の居場所から飛び出す勇氣 「主体性」：自己調整をしながら行動を起こす姿勢 「多様性」：自他の個性を尊重し、受け入れる資質 「協働力」：礼節をもって誠実に多様な人と協働する資質	・自身の経験・体験を振り返り、自分の言葉を紡ぎ、経験・体験から人間力を得る学びを実施する。 ・教科学習・探究学習・実践学習においてSTEAM教育を実施し、それぞれをより進化・深化させた学びを実施する。（教科横断型授業、地域を素材にした高度な探究学習を実現） ・先端的な技術や知見を取り入れ、プログラミング思考で実装する学びで、課題解決を学ぶ。 ・今の自身の立場を超えて、多様な立場と協働し、資源を獲得して事を為す資質と技能を探究学習から学ぶ。 ・公営塾と連携して、個別最適化された環境で、生徒が自己調整しながら自ら学ぶ力を育む。（自己調整学習） ・本質・根源的な概念型カリキュラムや概念型学習で生徒が能動的な学習能力を育む。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・	教育活動に関する方針に伴う活動	町や地域住民と連携して課題解決に取り組む、町内外から集まる仲間と切磋琢磨できる環境の充実を目指す。全職員でグラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを意識して地域全体が学びの場となるように工夫を続ける。	B	地域の方々との連携を密にして協力体制を維持することができた。新学科の1・2年生を中心にプレゼンテーションの機会が増え、コミュニケーション能力が向上し、町内外から集まる仲間と切磋琢磨できている。	コミュニケーション能力のみならず、各ポリシーに対する意識を徹底させる必要がある。本校の取組目標が継続できるよう、引き続き取組を進めていきたい。また、グラデュエーション・ポリシーを含めスクールポリシーを、生徒の実態に即した形に改訂中である。
学校経営	業務改善を目指す円滑な組織運営	I C T 機器や業務改善ソフト等を有効活用し、情報の共有を図るとともに、働きやすい環境づくりのために良好なP D C Aサイクルを生み出す工夫を教職員同士で意見交換し、構築できるように取り組む。	B	校務支援システム等を活用し、各職員の動向管理など情報を共有することができた。早出・遅出を積極的に活用し、働きやすい環境の整備につながったと考えている。業務改善ソフトも積極的に活用できている。	職員室を機能的に席替えし、机上を整理することにより、会話がしやすい環境の整備を行った。職員同士のコミュニケーションは活発になり、業務に関する意見交換も増えてきている。価値のある会話となるようにしたい。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアル及び防災避難訓練の在り方を随時見直し、地域と連携した活動を行う。また、情報セキュリティに関して、生徒・教職員にセキュリティポリシーの啓発に努める。	B	昨年度、学校防災教育実践モデル地域研究事業に指定され、細部までマニュアルを点検・改訂し運用している。情報セキュリティに関しては教職員、生徒に対して、ともにセキュリティポリシーの啓発に努めた。	昨年度改訂したものをもとに、次年度以降も引き続き検討を続け、運用していきたい。例年行っている保小中高合同避難訓練などを実施した際に、事後の検証を大切にする。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

学習指導	家庭学習の充実	公営塾とも連携し、高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。 A：150分以上 B：140分以上 C：120分以上 D：90分以上 E：90分未満	E	平常時の平均時間は76分であり、目標を達成することができなかった。昨年度より82分下回った。生徒は放課後にゼミ活動や探究活動に積極的に取り組んでいる一方、教科学習に充てる時間が十分に確保できなかった可能性がある。また、学習習慣の定着が不十分であったことから、定期考査に向けた計画的な取組につながらず、目標達成に至らなかったと考察される。	1人1台端末やスタディ・サプリ等を用いて、平常時から継続的に学習する意識を向上させていきたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要がある。公営塾との連携も一層図っていきたい。
	教科指導の充実	教科学習・探究学習・実践学習においてSTEAM教育を実施する。 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 E：0回	C	理科および地歴では、「地球環境問題とエネルギー問題」を共通テーマとして、計2回のSTEAM教育を実践した。その結果、生徒は複数の教科の知識を関連付けながら課題を捉える姿が見られ、環境問題やエネルギー問題を自分事として考える力や、持続可能な社会について主体的に思考する力の向上につながった。	来年度は、理科・地理歴史科に限らず、複数の教科がそれぞれの学習内容や課題設定に応じてSTEAM教育を年間4回以上実施することを目標とする。各教科の特性を生かしながら学習内容を関連付け、生徒が多角的な視点で課題を捉え、主体的に探究を深められる授業づくりを進めることで、STEAM教育の充実を図る。
		漢検2級取得者2人、実用英検2級取得者4人、商業資格検定3種目1級合格者2名以上を目指す。 A：8人以上 B：6人以上 C：4人以上 D：2人以上 E：2人未満	A	漢検2級取得0人、英検2級取得8人、商業資格検定3種目1級取得0人であった。目標を達成することができた。検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、継続した勉強を続けていく必要性を感じた。	意識付けや動機づけを継続して行い、公営塾とも連携を図り、より高い資格検定合格を目指す。また、漢検や商業資格検定にも積極的に取り組ませたい。
生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	毎月1回の身だしなみ指導は実施したが、不合格者がいた。	普段から風紀委員会から呼びかけ・啓発を行い、身だしなみを整える意識を高める。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通指導を行う。横断歩道の使用、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	A	自転車通学生はいないが、使用する時はヘルメットの着用するよう指導した。バイク通学生集会を行いその都度バイク通学生を集めて安全運転について指導した。全体を通して、徒歩、自転車、バイクでの大きな事故はなかった。	引き続き毎学期通学方法別集会を行い、バイク通学生については、月に1回集会を開き、交通安全指導を行う。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	A	予定通り奉仕活動を行い、環境美化意識を高めることができた。今年度は、ロータリークラブとも協働して作業することができた。	次年度も継続して地域とも協力しながら奉仕活動に取り組みたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を一人一役経験させる。	A	各種専門委員を経験させることができた。	より活発な委員会活動が実施されるよう、委員会発表の機会を設けるなど、工夫していきたい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会、企業説明会を年2回以上実施する。	A	社会人基礎セミナー、南予企業合同企業説明会の実施や大洲・内子地域合同企業説明会に参加したことでキャリア教育の充実につながることができた。	今年度同様、社会人基礎セミナー、南予企業合同企業説明会などの実施でキャリア教育の充実を図っていきたい。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、進路意識の向上を図り、生徒のよりよい進路実現につなげる。	D	1学期に進路の手引きの発行、毎学期大学からのチラシを配布したが、ただ配るだけの形が多く、進路意識を高める対策があまり足りなかった。	来年度は進路の手引きの活用、学期に1回進路だよりの発行を行い、生徒への進路意識を高める対策を行いたい。
		進学、就職内定率100%を達成する。 A：100% B：95% C：90% D：85% E：85%未満	A	就職希望者全員の応募前職場見学実施、積極的なオープンキャンパス参加、進学就職補習の実施などで進路指導の充実をはかることができた。	今年度同様、同様の活動を行いたい。ただ、生徒のよりよい進路実現のために特に夏季、冬季補習を改善したい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	B	年3回の人権・同和教育HRと人権講演会、デートDV講座を実施することができた。	生徒の実態や要望に応じて講演会の内容を検討していきたい。
		人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実し、人権だよりを年 <u>6回以上</u> 発行する。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：3回未満	A	4月から毎月人権だよりを発行した。人権委員会が参加した研修の報告や、各学年のHRの振り返りを掲載することで啓発につながった。	人権だよりの内容を人権委員会の生徒に考えさせることで、より生徒の意識向上につながる内容にしていきたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通してスマートフォンやSNS等の適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	C	毎学期の始業式、終業式、学年集会で生徒への指導を行った。人権だよりにもSNS利用時の注意事項を掲載した。	SNS関連のトラブルが及ぼす影響を情報や公民等の教科と連携しながら指導していく必要がある。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	C	短期留学した生徒の成果報告を全校の前で行うことで、異文化への理解を促すことができた。	外国人差別や異文化理解についての講演等を実施していきたい。
現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	A	人権講演会や職員会議後のミニ研修を行い教職員の資質向上を行うことができた。	ハラスメントや情報モラル、いじめ等、身近で起こるトラブルの対応についての研修を充実させていきたい。
		年5回以上の研究授業や教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	A	人権・同和教育HR活動や各教科の研究授業を計画的に実施することができた。	時間割の変更等を効率的に行い、より多くの教員が相互参観できる環境を作りたい。
保健・安全管理	保健活動の充実	生徒の健康課題に沿った「保健だより」を毎月1回発行するとともに、主体的な生徒保健委員会活動を目指し、SHR発表や掲示物作成等を積極的に行い、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	A	毎月保健だよりを発行し、配布時には、保健委員がワンポイント説明を行うことで、生徒の興味・関心に繋げることができた。全校集会においては、熱中症について啓発を行い、健康意識の向上に努めることができた。	生徒が主体的に活動できる委員会を継続するとともに、生徒の実態に応じた取り組みや、達成感を得られるような実践方法を検討していきたい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	B	八幡浜保健所と連携し、食品衛生講話を実施した。食品衛生の正しい知識を身に付け、実践に繋げることができた。	全校生徒を対象に、生徒の実態と健康課題に応じた講話等を取り入れ、心身の健康管理と意識向上に努めていきたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	A	毎月1回衛生委員会を実施し、教職員間での声掛けや、教職員健康管理医の助言等も取り入れ、職場環境改善に努めた。	引き続き、教職員健康管理医とも連携しながら、感染症対策も含め、職場巡視を的確に行っていききたい。
		教職員に対し、メンタルヘルス等の講話及び研修を年1回以上開催する。	C	健康相談室だよりを掲示する等、心身の健康に関する情報を提供することはできたが、研修等は実施することができなかった。	教職員の健康相談の体制を見直し、充実を図るとともに、メンタルヘルス等の講話や研修を取り入れていきたい。
	安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	A	毎学期1回、防災の観点も含み安全点検を実施した。速やかな事後措置により、安全管理を徹底することができた。	今後も事務課と連携しながら、安全管理に努めたい。安全点検簿について、点検項目をチェックリスト化する等、確実に点検ができるよう改善していきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

図書活動	図書活動の充実	朝の読書を全員が確実に行之、読書に対する意識を向上させる。	C	各クラスの学級文庫に担任が読んでほしい本を設置することで読書意欲の向上に努めた。連絡事項が多く、読書の時間を十分にとれない日が続くことがあった。	図書室の本を週ごとにローテーションで学級文庫に分配することで教室にいながら様々な本に触れる機会を増やしていく。
		図書委員会で「図書館だより」を毎月1回発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	C	図書だよりの発行により新刊図書の案内や各クラスの貸し出し冊数を共有することができた。毎月の発行には至らなかった。	図書委員の生徒のおすすめ本や読書感想文の優秀者の文章を掲載する等、年度始めに毎月の掲載内容を事前に決めておく。
		年間50冊以上の図書貸出者数10名以上を目指す。	C	先生のおすすめ本の掲示等を行い、図書室に入るきっかけづくりを行った。一定数の来館があるが貸し出しにはつながらないことが多い。	多読表彰や図書貸出クラスマッチを実施する。
PTA活動	PTA活動の充実	ホームページに月ごとの行事予定を掲載したり、三崎高校だより「花橋」を毎月発行することで、学校行事や生徒の活動の様子を伝えていく。	A	確定した行事予定は翌月までにホームページに掲載することができた。生徒の活動の様子はInstagram等も利用して発信できた。毎月発行の三崎高校だより「花橋」やマチコミ等を通じて、保護者に必要な情報を伝えることができた。	生徒が参加する地域イベント等の情報が保護者に伝わるよう、ホームページやマチコミを使って発信したい。
		オンラインを利用することでPTA総会等の学校行事への出席率を向上させるとともに、交流を深められる活動を企画する。	B	PTA総会ではオンライン参加も募り、多くの保護者に参加していただいた。本年度PTA交流会は、総合的な探究の時間の発表会に合わせて実施し、生徒の活動の様子を見ていただくことができた。	PTA交流会については、開催時期や内容などをさらに検討し、より多くの保護者が参加しやすいものになるよう、検討を重ねていきたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。文具類等のリサイクルの推進に努める。迅速かつ適正な事務処理をする。	A	光熱水費等の節約を啓発するとともに、計画的な予算執行をすることができた。ファイルの再使用等、リサイクルの推進に努めることができた。	引き続き、節約の啓発や消耗品のリサイクル推進に努めていきたい。
	環境整備と安全管理	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。屋外環境の保全と美化に努める。	A	校内巡視や教職員からの連絡により、不良箇所の早期発見・早期対応に努めることができた。また、不要な樹木の伐採等、屋外環境の美化に努めることができた。	修繕を要する個所で未対応の箇所については、予算の状況により順次対応していきたい。
地域活動	地域と連携した取組	地域行事等への参加、年10回以上を目指す。 A：12回以上 B：10回以上 C：5回以上 D：3回以上 E：不参加	A	地域行事等に20回（今後の予定2回を含む）参加するなど、意欲的に地域活動等に参加することができた。	今年度は課内だけでなく、全教員で協力して地域行事等に参加する生徒の監督や引率が多かった。
	生徒の自主的な活動の充実	各種コンペやコンクールに積極的に応募する。 A：5回以上 B：3回以上 C：2回 D：1回 E：不参加	A	コンクール等に5回応募し、「うみボス甲子園」3位、「まちづくりヒーロープレゼン」3位、マイプロアワード地方大会進出などの成果を収めた。	校内で役割分担をし、生徒の関心に合わせて積極的にコンクール等に参加できる体制を整えたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。